京都・東九条 CAN フォーラム
ニュースレター第3号

2010 年 2 月 6 日
No.003

この号の内容

1 多文化が息づく活気あるまちへ

2 東九条マダンにて「コンナムルパップ」を出店

3 10 月連続学習会「ひとが人らしくいきてゆけるまちづくりのために」

4 12 月連続学習会「住みやすいまちー福祉コミュニティー」

5 事務局からのお知らせ、連続学習会第5回「大阪西成地区の取り組みから学ぼう！」

多文化が息づく活気あるまちづくりを目指して

京都・東九条 CAN フォーラム　事務局

2010 年は朝鮮が日本の植民地となった「韓国併合」から 100 年になります。在日世代も今や 5 世が誕生しています。国籍も、韓国・朝鮮より日本籍が多数を占めるようになり、改めて「国家と民族」と言う古くて新しい問題と向き合わざるを得ません。近年は韓国・朝鮮籍者の減少と反比例して、ニューカマーと呼ばれる人々が、中国、韓国、東南アジア、南米などから多く来られ、新しい住民として私たちと共に生活しています。東九条地域はこのような時代の流れにありながら、一方では、人口の減少と高齢化が進み、まちに活気がなくなりつつあります。

多文化が息づく活気あるまちへ

東九条地域はとても魅力あるまちです。貧しいながらも様々な立場の人々が助け合い、力を出し合って生きてきた歴史があり、それを多方面から支えてきた住民運動の力があります。また、多民族・多文化が日常の生活に息づくまちです。毎年 11 月に開かれる「東九条マダン」には、地域の人々だけでなく、東九条を心のふるさとと思う人々や、「多文化共生」を求める人々が多く来られ、一日中活気に満ち溢れます。京都駅からも近く、交通アクセスも良く、東には鴨川や高瀬川が流れ、東山連峰も近くに見える自然環境にも恵まれた地域です。東九条のこの貴重な財産を生かすならば、このまちはきっと「多文化が息づく活気あるまち」へ再生することと思います。

大阪西成地域の取り組みから学ぼう！

私たちは、このようなまちづくりを目指して、昨年 5 月発足以来公開学習会や、イベントを開催してきました。また、12 月 14 日には、大阪西成地域で先駆的にまちづくりに取り組んでいる「密集市街地研究会」や「（株）ナイス」「在日コリア研究会」他、等の人々を東九条に迎え、フィールドワークと交流会を行い、彼らから多くのことを学びました。そこで今回それらのことをもっと深化するために、西成地域へ行ってフィールドワークと交流会を行うことになりました。
CAN フォーラム以外の人々も是非参加されることを期待します。

東九条マダンで「コンナムルパップ」を出店

昨年 11 月 3 日、京都市立陶化中学校において第17回東九条マダンが開催され 4,000 人余りの方々が参加されました。CANフォーラムも屋台を出店し、東九条 CAN フォーラムの存在をアピールしました。コンナムルパップ（豆もやしと豚肉の入ったごはん）は韓国ではとてもポピュラーですが、日本での韓国料理のお店では売っていませんので、たくさんの売り上げを期待しましたが、予想に反して売り上げはあまり伸びませんでした。プロダクツはまずまずでしたがセールスに多くの反省点がありました。来年はもうワンランクレベルアップしてチャレンジしたいと思います。

CAN フォーラム連続学習会第3回

「人が人らしく生きていけるまちづくりのために」

－部落民というひとくくりから「私」、「私」から関係性を紡ぐ－

2009 年 10 月 17 日、エルファセンターの 1 階にて連続学習会が開催され、今回は“部落”をキーワードに福岡ともみさんを講師に招いた。連続学習会ではじめての女性だ。20 人前後が参加した。

● 私にとっての部落解放運動と組織のメカニズム

勉強会の副題は“部落民というひとくくりから「私」、「私」から関係性を紡ぐ”、講演の内容もご自身の体験が機軸となった。福岡さんが生まれ育った愛媛県は部落解放運動や運動体が活発ではなく、進学した徳島大学で学生運動として部落解放運動に参加された。のちに部落解放同盟奈良県支部にて職員として勤めることになったが、その中で利権問題や組織のメカニズムに疑問をもつようになったという。つまり、問題がおこっても幹部には処分が甘かったり、上意下達と少数意見が無視され、個人の感情が棚上げされる、なかでも女性への暴力の問題が置き去りにされていることに気づかれたとのことだ。部落内での女性への暴力、障害をもつ女性への暴力を明らかにしようとする取り組みは著書である『笑顔を取り戻した女たち』にまとめられている。

女性であること、自分の心と身体が痛めつけられているということにノーの声が上げられない、ということが何だったんだろうとフェミニズム心理学を学び出したことをきっかけに、奈良での夫殺しの裁判傍聴を始めた。被告には「借金をつくって夫を殺してしまった鬼のような女」というレッテルが貼られていたが、その支援（？）活動の中で女性差別というものに対する気持ちが変わっていく。現在はウィメンズカウンセリング京都においても活動されているがそこでの学びの中から、「部落民」というくくり、「○○」という集団の中の私ではなく、「私」自身から感情を出し合う、話ができる関係を意識的につくっていくことが大切ではないか、葛藤の過程にこそ「解放」があるのではないかと話された。

福岡さんの話の中で印象深かったのが、「被害者　は弱者ではなくサバイバーである」「ハーズストーリー（彼女の物語）が大切」というお話である。東九条には数多くの独居高齢女性が暮らしており、一般的には社会的弱者かもしれない。しかし、彼女たちのもつ東九条で生き抜いてきたしなやかさはそのまま東九条の魅力ではないか。東九条で暮らす女性たちのハーズストーリーを聞くことから関係性を紡ぐことも東九条のまちづくりだろうと改めて感じた学習会であった。

【福岡ともみプロフィール】
ドメスティック・バイオレンス被害者や性暴力被害者のサポートに関わるきっかけはDV 被害者が加害者となってしまった事件の裁判。被差別マイノリティの権利擁護や「人間と差別」の課題に取り組んできていた。現在は、女性のためのサポートを中心に活動している。2001年から NPO なら人権情報センター相談員。2007年6月からウィメンズカウンセリング京都所属セクハラ専門相談員。
《共著など》『家族支援論1人ひとりと家族のために』（相川書房・得津慎子編著）、「笑顔を取り戻した女たち　マイノリティ女性たちのDV被害―在日外国人・部落・障害―」（パド・ウィメンズ・オフイス／社団法人東京自治研究センター・DV研究会編）

女性であること、自分の心と身体が痛めつけられているということにノーの声が上げられない、ということが何だったんだろうとフェミニズム心理学を学び出した

奈良人権センター相談員
福岡ともみ

「部落民」というくくり、集団の中の私ではなく、「私」自身から感情を出し合う、話ができる関係を意識的につくっていくことが大切ではないか、葛藤の過程にこそ「解放」があるのではないか。

「被害者　は弱者ではなくサバイバーである」「ハーズストーリー（彼女の物語）が大切」

CAN フォーラム連続学習会第4回

「誰もがくらしやすいまち＝福祉コミュティーとは」

昨年 12 月 18 日龍谷大の加藤博史先生をお招きし、第 4 回連続学習会が「誰もがくらしやすいまち＝福祉コミュティーとは」をテーマとして開催されました。

私達の会は在日コリアン多住地区である東九条で「多文化共生のまちづくり」を志向していますが、その為には障害者、高齢者、女性など全ての人々が生き生きと暮らせる事が大切です。今回の学習会は、福祉コミュテティー＝地域福祉の視点を私達の「まちづくり」にどう活かせるのかをテーマに設定されました。

学習会のなかでは社会福祉・地域福祉の噛み砕いた概論に続き、加藤先生ご自身が関わったケースがいくつか紹介されました。ひとつは龍谷大に隣接する砂川学区の事例が挙げられました。（具体的な活動の報告は「京都市の安心安全ホームページ」）|| ここでは地域住民が主体となり、住民の中から、住民のペースで「まちづくり」が行なわれ、独自な文化・伝統の継承、多様な価値観の尊重、他地域への開放性など「地域のエンパワメント」に繋がる指標があり、学びの宝庫になっているとの評価が語られました。 その一方加藤先生が開設・運営に携わる左京区のグループホームへの地域住民の反対運動により撤退せざるをえなかったケースでは、「地域」の難しさも併せて浮かび上がりました。また大阪府下で市地域福祉計画策定に関り、精神障害者・家族の声を集める中で「障害者の社会参加」と「市民の主体的ボランティア活動」を融合させた「インクルーシティブ・コミニュティ」という視点が提起された事も報告されました。

今回も多岐に渡る内容の濃い学習会となり、私達のまちづくりの実践に今後どう活かしていくのか、多くの課題をあたえて頂くこととなりました。

最後に昨 11 月に龍谷大学生約 200 人を対象にして実施された「在日コリアンを含む永住外国人の権利、及び多文化共生に関する意見調査」の概略とその分析結果の報告が加藤先生からあり、今後この調査を継続・発展させる為の意見交換が行なわれて学習会が終了しました。

【inclusive】インクルージブ

本来の意味は、含まれること、包括することを言います。 今は、障害の有無、年齢、性別、国籍の違い等にかかわらず、誰もが参加し形成する社会の形態をインクルージョンと呼ぶようになりました。

インクルージョンとは、異質なものが交じり合って美しい様相を示す状態のことです。高齢者や障害者も外国人も普通に暮らせる地域づくり、様々な価値観や文化をもった人達を地域の中に織り交ぜてきらっと輝く町になったらいいですね。

ノーマライゼーションという理想のみを言っていた時代から、インクルージョンという手段が生まれ、インクルーシヴが実現した、（現実可能な）社会の構築へといった推移を辿ってきている。

龍谷大学短期学部
社会福祉科教授　加藤博史

住民の中から、住民のペースで「まちづくり」が行なわれ、独自な文化・伝統の継承、多様な価値観の尊重、他地域への開放性など「地域のエンパワメント」に繋がる指標があり、学びの宝庫になっている

- 個人会員　1 口　1,000 円
  一口 1,000 円で何口でも結構です
- 団体会員　1 口　5,000 円
  一口 5,000 円で何口でも結構です
- 賛助会員　いくらでも結構です
  活動に使わせていただきます
- 特別会員　会費負担なし
  どんどん活動に参加してください

多くの活動資金を必要とします、ぜひ、2口、3口とご協力ください。

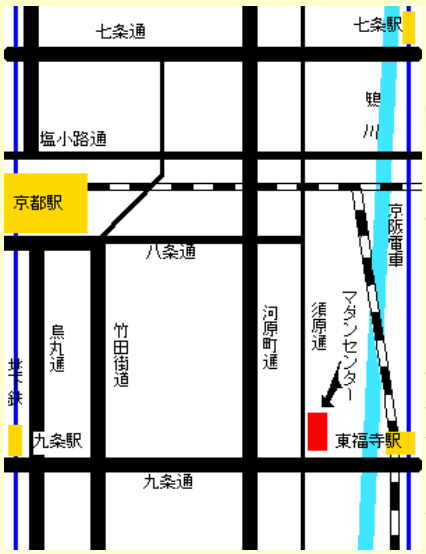
振り込口座：ゆうちょう銀行　00910-7-216594　口座名義：キョウト・ヒガシクジョウキャンフォーラム

事務局からのお知らせ

● CAN フォーラム連続学習会その6予告

日　時：未定（4下旬～5月上旬）
場　所：未定（故郷の家・京都を予定）
「多文化共生センター」「国際市場」「東北アジア平和福祉大学院大学」「留学生寮」など、東九条の可能性と意義について話し合い、実現性と運動の道筋などを検討する学習会をしたいと考えています。パネルディスカッションかワークショップ形式になると思いますが、2009年度 CAN フォーラム活動の締めくくりとしてふさわしいものにします。
当日は CAN フォーラムの第2回総会も同時開催する予定です。日時、場所が決まり次第、改めてご案内します。

● マダンセンター地図



東九条マダン実行委員会・東九条CANフォーラムの事務局があります。

アクセス
市バス：202・207・208 番系統「九条河原町」停留所下車、徒歩 3分
地下鉄：九条駅下車 徒歩 12 分
京阪電車：東福寺駅下車、徒歩 5 分

京都・東九条 CAN フォーラム
〒601-8013　京都市南区東九条南河原町3
075－204－7900
http://higashikujoforum.jimdo.com/
E-mail/higashikujoforum@gmail.com

● CAN フォーラム連続学習会その5
「大阪西成地域の取り組みから学ぼう！」

日時：2 月 28 日（日）
① 京都集合場所、JR 京都駅八条東口 11 時
② 現地集合場所、JR 今宮駅改札口13時
費用：各自負担（京都駅―今宮駅　片道890円）
交流会参加者は実費負担（3-4000円予定）
交流会は予約の関係上、事前申し込み必要

昨年12月14日、大阪西成地域で先駆的にまちづくりに取り組んでいる「密集市街地研究会」や「（株）ナイス」「在日コリア研究会」他、の人々が崇仁地区・東九条地区のフィールドワークに訪れました。先ず、部落解放同盟から韓国民団の職員まで、おおよそ京都では考えることもできないような組み合わせの人々が一緒に活動していることに驚かされました。メンバーの一人が「この地区はまだ真っ白やね、すごい可能性がある魅力的なところだ。できることなら我々がここで事業をしたいくらいだ。」と言った言葉にも少なからずショックを受けました。正直に言って、「東九条は東九条の者にしか解らん、他所から来た者に何ができるねん」という気持ちもおこりましたが、自信ありげな言葉に「お前ら何しとるんや、やることいっぱいあるやろ」ときついパンチを食らった気分でした。その後、西成での様々な取り組みをインターネットでわかる範囲で調べてみたところ、それこそ、ものすごいショックを受けることになりました。
その中身はあまりにも多彩で、ここでは紹介しきれませんので、「株式会社ナイス」のホームページからリンク先まで丁寧に閲覧することをお勧めします。
今回のフィールドワークは東九条のまちづくりを進めていくうえで、大きなヒントと意欲の高揚を得ることができると信じます。CAN フォーラム以外の人々も是非参加されることを期待します。参加される方は CAN フォーラムに連絡下さい。